

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100966		
法人名	NPO法人支え愛ひかりの家		
事業所名	ほのぼの		
所在地	熊本市西区河内町白浜イ2238番地		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町村受理日	令和3年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の方々が、毎日楽しく生き生きとした生活を送っていただけるように、アットホームな環境づくりに心がけています。
ご家族の方とも連携を図り、信頼関係も築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年、高齢化・重度化傾向は否めないが、コロナ禍に負けじと職員の得意分野を発揮した日常は、入居者の歌や談笑という明るさを引き出している。入居者の最終章に寄り添う姿勢を“私たちの心がけ”として記しケア統一を図り、事故・ヒヤリハット事例を検討しながら再発防止に真摯に取り組む等全職員がチームとして高い意識で臨むホームである。開設時よりの地域の中での生活や交流が功を奏し、大型台風接近に伴う避難に、家族や近隣からの声かけや協力により安全に避難しており、この地で確固たる基盤が築かれている。運営推進会議も開催できない回にはホームからの情報発信に加え、構成メンバーから意見や提案等を収集する等創意工夫しており、地域とともにありたいとする熱い思いが表れている。今後も地域の福祉を担うホームとして大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員、理念を認識し、その理念もとに介護を行っている	恵まれた地域環境のなかで、利用者の方々と共に、毎日楽しく過ごせる暮らしを目指すことを大前提に、職員との合議により見直した3項目を理念として掲げている。掲示による意識強化や、毎月の話し合いに理念を想起させ、入居者を第一にしたケアに努めている。開設時より密接に地域と関わる等、密着型事業所として高い意識を持ったホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけると、挨拶のみならず、近況についても気にかけてもらっている 最近ではコロナの影響で訪問は殆どない	地域との餅つきやボランティアの訪問、地域住民とのちまき作り等これまで地域と深くかわり、コロナ禍により住民との交流は少なくなってきたが、イチゴやミカン農家からの差し入れや、散歩に出ると近くの方々から声を掛けられる等ホームの存在は浸透している。大型台風接近に伴い、家族や地域の方々からの声掛けにより安全に避難できており、地域の中でのこれまでの関わりの確かさが表れている。	新型コロナの影響により、地域との交流は希薄になっているのは致し方ないと思われる。コロナ次第では、今まで行われてきた地域住民との交流を再開されることと期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ自粛の影響もあり、対面する機会は殆ど出来ないが、2か月に1度の運営推進会議の際、郵送で生活状況や介護方法について報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では郵送での報告となるが、実際に行っている介護方法を伝えると共に、地域の方の意見を参考にし、介護方法の改善に努めている	運営推進会議が中止の場合には報告書を郵送し、手紙で意見をもらいサービスに反映させている。メンバー構成も充実し、駐在所から散歩やドライブ等に交通事故防止の徹底が呼びかけられ、行事や活動報告の他、災害発生時の避難訓練や看取りケアの実践を報告しており、透明性のある運営体制である。身体拘束についても運営推進会議の中で報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡は密にとっていないが、相談や疑問点は気軽に連絡を取り合える関係はできている	市からの情報(コロナ感染対策等)が随時届き、職員に回覧し共有している。自肅要請が解除されたのちの運営推進会議の開催方法等不明な案件は行政担当部署に相談する等相互連絡をする関係性が出来ている。介護保険更新を代行し、訪問調査に立ち合い、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、職員で情報の共有を行い、身体拘束は一切行っていない	法人での研修、ホーム内研修により意識を強化させるとともに、身体拘束廃止に向けた委員会を3ヶ月毎に開催し、意識改善に努めている。センサーマット使用(転倒の危険性)に家族に承諾を得て、記録に残し、夕方の帰りたいとの思いには職員が付き添い散歩に出る等入居者個々の帰宅願望や外出傾向を把握し、個別に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近では社内研修が主になるが、スタッフ間でお互いに適切なケアが維持できるように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修や社内研修にて専門の方より指導を受けたり、スタッフ間で情報交換し互いに学ぶべき点を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に納得されるまで説明を行い、疑問点や不安に思うことがあれば、24時間365日いつでも話し合える状況にある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話し合える関係を築けており、意見箱も設置しているが、実際に話し合う機会が多くそれを参考にしている	家族には不明な点等がないか問いかける等気軽に話し合える関係を築いており、直接電話や面会時に要望等申し出られている。また、ホーム側から家族に不足品等提案し相談するケースや、レクリエーションに参加される等家族との良好な関係が築かれている。“ほのぼのの便り”と個別に近況を報告する等、コロナ禍の中で訪問も難しい現状に、ホームからの発信が家族の安心に繋げている。	テレビ電話を駆使する等検討いただき、遠隔地の家族への情報発信の場にもされることを期待したい。会えない家族への安心へとつながるものと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ間で気軽に話し合い、相談しやすい環境にあり、上司にも気軽に相談でき、スタッフの意見を尊重している	職員同士風通しの良い関係が築かれており、職員の得意分野を生かした日常である。毎月のミーティングの他、日々コミュニケーションを図り、職員同士の話し合いの結果を代表に上申する体制としている。防災や感染症対策等のマニュアルは、職員がよく目にする場所に置き、手に取って確認でき状態に設置することで意識強化としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが信頼してくれていて、スタッフが自ら向上心を持って、より良い環境にする為の意見を良く聞いてくれる 残業はない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月あるミーティングや社内研修でにて学ぶ機会を持ち、共に成長していくよう2努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近コロナウィルスの影響もあり、気軽な交流ができているとは言えない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望をしっかりと聞き入れ、安心安全を基盤にして サービスを行う様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも納得出来る迄しっかり話し合いを行い 信頼関係が築けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族とスタッフを交え話し合いをし、それぞれのニーズに添った対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみ、台ふきやお盆拭き等 ご利用者に協力していただき、共に生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染の為の自粛期間以外は、いつでも面会受付けており、接し方についても家族と共に考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との連絡が取れるようにサポートしたり、外出の際、以前住まわれていた地域へドライブで出かけたりしている	ホームから望めるミカン畑等が馴染みの環境であるとともに、入居者同士も馴染みの関係であり、台風時安心した避難に繋がっている。「電話を掛けさせて」と家族に直接電話を入れる方や、出身地へのドライブ、ホームでも縫物をしたり、恵まれた環境を大切にしながらよく買い物に行かれていたスーパーでの買い物等、人・場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動の際は、皆で輪を囲むように座り、互いに顔を見合わせた、リ話ができる様になっている 時折ご利用者同士の口論もあるが、すぐにスタッフが仲裁に入り対応している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になられた時やお亡くなりになられた時は、行ける範囲で面会や御悔やみにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が声かけに努め、なるべくご本人の意向に添えるようにしている	入居者の直接の訴え、したい事等はプランに反映させ、意思疎通困難の入居者には、これまでの生活の中での把握や、表情・笑顔をバロメーターとして判断したり、家族に聞き取りし日常生活に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際の情報をもとに、ご本人の話を傾聴したり話しかけたりしながら状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を一番に尊重し、ご家族からの話やスタッフの観察から現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の内容をスタッフ間で共有し、変化に応じてはご家族と連絡取り合い内容を調整している	入居者から聞き取りしたニーズをそのままに記し、職員による本人の思いを引き出し、意欲的な生活に繋げる事等サービス内容に反映させている。ケアカンファレンス時に担当職員の情報を基に話し合う等職員の観察や気づきを生かすとともに、モニタリングにより継続の可否を見極めている。区分変更や退院時等に見直し、新たなプランを作成しており、現状に即したプランである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア状況を申し送りでスタッフ間で共有し 意見を統一してケアに当たっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に対応して、不穏時などには家族に連絡して面会の機会を設けてもらっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のハウスイちご畑に招待を受け、いちご狩りをさせて頂くなど、地域に密着した支援が出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は希望される医療機関を受け入れ、ご家族が付き添い受診ができない場合は、スタッフが同行し支援している	入居者それぞれの主治医で良いとしているが、家族の諸事情を鑑み、ホームでは協力医療機関(往診加)がある事を説明している。もともとのかかりつけ医の受診は家族としているが、家族の都合によってはホーム側が支援する等柔軟に対応している。状態変化時には主治医による家族との面談や紹介された専門分野への受診等適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は気づきを看護師に伝え相談したり、申し送りで情報を共有し、ケアや処置に対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を中心にケアマネや医療機関との情報交換に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を中心に、ご家族も納得のいく方針を共有し、主治医の指示をもとに支援に取り組んでいる	入居時のリスク説明や重度化した場合の指針を整備し、職員全員で話し合いを重ね、家族の思いに応え、看取りケアを実践している。主治医の指示、家族の納得を得て、頻回に居室に出向き、音楽を掛けたり、話しかけを多くするとともに、24時間連絡体制として、「私たちの心がけ」により意識を統一し、重度化した場合の観察や状況判断等をフローチャートで示している。また、看取りケアを全員で振り返り、ケア向上へと反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルが見えるところに掲示してある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練を行っている	定期的(年2回)な訓練や、近くの火災時にはホームを避難場所として隣接する小規模多機能より避難された事例があり、近隣住民の協力も得ている。大型台風接近の情報により、安全な併設施設への避難等家族や地域からの声掛けもあり安全に避難している。台風時には夜勤及び宿直と職員体制を手厚くし、朝からのゴミ出しも防火対策の一環としている。	危機管理会を設置する等意識を高くして臨むホームである。昨今、未曾有の災害が発生しており、職員が安心して職務につけるよう継続した訓練に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の生活スタイルを尊重し、見守りや介護を行っている 声掛けも同じ目線でお話し、排泄の確認時にはプライバシーを考え、声のトーンを落としたり別室で会話したりしている	入居者に敬意をもって接し、馴れ合いの言葉がけになりつつあるときにはお互いに注意喚起する等“親しき中にも礼儀あり”を旨としている。また、職員はケアに入る前にはまず入居者に挨拶をすることからスタートしている。同性介助を望む声には、職員が入れ替わり対応し、入浴や排せつ時のケア等プライバシーを守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員優先にならない様、語利用者のペースに合わせて介助している 趣味や好みを把握して、ご利用者の笑顔が引き出せるように援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩好きな人には毎日散歩して頂いたり、畑作りが好きな方は、スタッフと一緒に畑作業をされたりと、それぞれのご利用者に合わせて、その方らしい生活を送っていただける様にと心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えは自分で選べる方は選んでいただいている くしやタオルは洗面台のいつも手が届くところに名前を書いて準備している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片づけが出来られる方には、食器洗いを手伝ってもらっている テーブル拭きやお盆拭きもできる方に手伝ってもらっている	入居者は盛り付けや台拭き、茶わん洗いなど役割りが根付き、キザミ・トロミや水分もゼリーとする等食形態も様々である。時には畑で出来たサツマイモやたこ焼きパーティー等楽しみな食も工夫しながら支援している。食が進まない場合も、好きな食べ物(プリンやどら焼き等)や、食べたい時間に提供する等個別に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量に排泄の有無は毎日チェックし記録している 月1回体重測定もしている 摂取状態が悪い時は主治医に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの介助が必要な方には、ブラシやペーパータオルを使っている 義歯の不具合や虫歯、歯肉のびらん等発見したら、歯科医に報告し往診してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄リズムや尿量に合わせトイレ誘導をしたり、尿取りやシート等のオムツの調整を行い個別性に配慮した対応を行っている 半日臥床される方は寝る前にトイレ誘導の声かけをしている	入居者個々の排泄のパターンを把握し、トイレへの誘導や、昼・夜と排せつ用品を検討し個別に支援している。尿意があり、訴えられる方もおられ、夜間はポータブルトイレへ誘導している。介護度も高く、部屋での排泄支援も行われているが、排便についてはトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトを朝食に提供している 水分補給に努め飲水量もチェックしている 体操や散歩、廊下の歩行訓練等、努めて活動的な運動を取り込んでいる 便秘症の方は下剤や坐薬でNS指示で調整する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中入浴で、週2回以上行っている ご本人の意向やタイミングに添わないこともある	バイタルチェックにより入浴の可否を見極め、基本的には週2回以上の入浴として間隔があかないよう支援している。湯船に浸かり、温まってもらうことで楽しみ入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体を動かし、生活リズムを整えている 部屋の温度調整や湿度、換気に気配りしている 車いすの方は、リフト使用で浴槽入浴を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服についてはNSに確認し、スタッフ間で必要な情報を一貫し共有している 投薬時、スタッフ間でダブルチェックを行い更に声出し確認し、服薬後は1日分薬袋残し確認し 誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや台拭き等の役割を担って手伝ってもらったり、利用者の方とスタッフと一緒に花を植えたり畑に野菜を植えたりと張り合いある日々が送れるよ心がけている 行事毎のおやつ作りにも一緒に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は毎月時間の取れる日にドライブ外出来ていたが、コロナ感染の危険から外出は控えている已む得ない受診や用事での外出は、マスク着用と三密を避け、感染防止に努めている	入居者の一日一日が大切であることを認識し、出来る限りに外出を支援している。神社参拝やコスモス・ユリの花見学、密を避けたドライブ等感染対策を徹底したうえで外出を支援している。御宮参りに出向いたり、日常的な散歩ではイチゴハウスで味見に呼ばれる等地域の中を楽しんでいる。	花の苗の購入と一緒に出かけ、一緒に植える等入居者と合同作業に取り組むホームである。入居者の“海を見たい、散歩に出たい、ミカン畑にいきたい”等の声に寄り添いながら実践されている。今後とも、入居者の希望に耳を掛け向け、できる事を支援していただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されるご利用者には、ご本人自身で財布を持参頂く様に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時には連絡を取りスタッフが中継ぎをして会話が出来るように 定期的に家族に広報誌や個別の近況だよりに それぞれのスタッフからのお手紙は発送している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁面を利用者の方と一緒に制作している 時折お天気の良い日はテラスで茶話会したり、外の景色を見て楽しんでいる 行事ごとの写真も張り出している	入居者が見慣れたミカン畑などを望める静かな環境の中にあるホームは、外音も無く、季節柄クリスマスツリーが飾られたリビングを中心として仲良く過ごされている。壁面を活用した作品は、訪問者の目を楽しませ、テラスでのお茶会や談笑される姿にグループホーム本来の姿を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは自室で過ごされている 日中ホールで、テレビを見たりお話されて過ごされるご利用者が多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の持ち込品が多く、時計イス、写真、カレンダー、タンス、テレビ等おかれている 鉢植えお花を世話したり、仏壇も持参されている	入居時に本人・家族の希望する空間として前の生活を再現すると説明する等在宅の沿線の上に位置づけている。仏壇を持ち込み、散歩時に摘んだ野の花をお供えする入居者や、フローリングに畳を入れたり、入居者が動きやすい環境にするために話し合う等入居者視点で検討した居室環境としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には各自入り口に〇〇様宅と、お名前を記載し、トイレ場所等は解り易い様にとつけている 転倒の危険性が高い方には、ご本人、ご家族のご理解を得て、離床センサーを設置している		